

清流の国ぎふ 防災・減災センター げんさい未来塾スーパーバイザー



いとう み え こ
伊藤三枝子

1956年福井県生まれ。大垣市在住。2013年に防災士を取得。大垣市を中心に各種団体、自治会、学校などで講演会や研修会の講師を務めている。2016年4月より、「清流の国ぎふ 防災・減災センター」主催の、自主防災活動を主体的に担う人材を育成する「げんさい未来塾」に入塾。2017年1月に「清流の国ぎふ女性防災士会」を立ち上げ会長として就任。2017年3月げんさい未来塾を卒塾後はげんさい未来塾1期生として、暮らし目線のHUG（ハグ：避難所運営図上訓練）や地域の問題点を知るDIGの指導を行っている。また子ども、障がい者、外国人など要配慮者のための防災活動をはじめとして、家庭や学校などにおいて日常生活の防災力向上を目指し、講演会や研修会などの活動を行っている。地域においては複数の町による避難所運営委員会を設立、合同防災訓練を通じ非常時における協力体制を構築するため一緒に活動している。2020年3月から、オンライン会議室Zoomを使った防災講座にも取り組んでいる。2020年4月「清流の国ぎふ 防災・減災センター」コーディネーターに就任。主な災害ボランティア活動として、2011年東日本大震災では、岩手県、宮城県。平成30年7月豪雨では、関市、広島市、倉敷市真備町。平成31年台風19号では長野市などでそれぞれ活動を行った。



いわい けい じ
岩井慶次

1956年恵那市に生まれ、アマチュア無線技士や消防設備士の資格を取得。恵那市防災研究会会長として防災講座の講師を務めながら地域の自主防災組織の重要性を説く。東濃地方をはじめ、愛知県、長野県の防災団体とともに発足させたネットワーク組織「地域防災ネット中部」の会長を務めている。趣味のアマチュア無線がきっかけで、電気設計設備会社の役員を務めながら「恵那地区アマチュア無線防災協議会」の会長として警察や消防と連携しながら、非常時の通信体制などについて行政と協定を結びボランティアで支援している。2006年に防災士の資格を取得し、各地で防災の心構えや災害時のノウハウを伝える活動をしている。2012年5月には東日本大震災の貢献が認められ、社会貢献支援財団より表彰されている。2015年4月より、岐阜県と岐阜大学が共同設置した地域防災の実践的シンクタンク機能を担う「清流の国ぎふ 防災・減災センター」コーディネーターに就任。さらなる高度な知識や見識を習得し、地域防災の要となる人材である「防災エキスパート」の育成に尽力している。



いわごけしんいち
岩茸伸一

1951年高山市生まれ。1971年から37年間、高山消防署に勤務。2008年大野分署長で退職。その間、阪神・淡路大震災及び新潟県中越地震を経験、退職の後、白川村囑託として消防団業務及び消防操法県大会に従事、2013年飛騨地域消防協会幹部研修で高木朗義教授の防災講演を受講し、同年、防災士の資格を取得。2014年8月、高山市民防災研究会を設立し、会長として地域の防災講演や防災組織づくりなどの活動を行っている。2016年「清流の国ぎふ防災・減災センター」げんさい未来塾に入塾し、「学校、教育現場での防災活動について」研究、研修を行い、卒塾後はげんさい未来塾一期生として活動中。2016年5月熊本地震益城町及び阿蘇地域にて、ボランティア及び現地調査を行う。2018年度「日本防災士会岐阜支部飛騨ブロック長」就任。2020年度「清流の国ぎふ防災・減災センター」コーディネーターに就任。各地域、学校等での防災意識の向上と防災組織及び地区防災計画の確立について尽力している。



くりたのぶゆき
栗田暢之

1964年岐阜県瑞穂市（旧穂積町）生まれ。名古屋大学大学院環境学研究科修了。1995年阪神・淡路大震災を契機に、現在まで50ヶ所を超える災害現場で支援活動を展開するほか、平常時には、被災地での学びを生かした地域防災力向上や災害ボランティア育成等に尽力している。2000年東海豪雨水害時は「愛知・名古屋水害ボランティア本部」本部長を務めた。2011年東日本大震災では東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）代表世話人、愛知県被災者支援センター長なども務める。震災がつなぐ全国ネットワーク代表、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議幹事、その他、中央防災会議専門調査会委員ほか国の省庁や愛知県地震対策有識者懇談会委員など地方自治体の各種検討会委員も歴任。また、多様なセクターとの連携推進を図るため、特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）を2016年に設立し、代表理事を兼任。岐阜大学、至学館大学非常勤講師も務める。2015年清流の国ぎふ 防災・減災センターコーディネーターに就任。



たかぎ あきよし
高木朗義

1963年名古屋市生まれ。1987年岐阜大学工学部土木工学科を卒業。建設コンサルタントで都市域の浸水対策を中心に技術者として勤務しつつ1996年に岐阜大学より博士（工学）を取得。1998年技術士（建設部門 河川，砂防及び海岸），1999年技術士（上下水道部門下水道計画）を取得。1999年に岐阜大学講師に就任し，助教授を経て2006年より教授。その間，2008～2012年に岐阜県地域・都市政策監を兼務，2010～2015年に岐阜大学社会資本アセットマネジメント技術研究センター長を併任，2014～2017年に岐阜大学地域協学センター副センター長を併任，2015年より岐阜大学地域減災研究センター副センター長（減災社会推進部門長）を併任，同時に清流の国ぎふ防災・減災センターの取り組みに従事している。専門は，地域マネジメント（まちづくり，総合防災，政策評価，インフラマネジメント）。地域を支えるためのハードからソフト，つまり社会基盤施設から人的ネットワークに至る幅広い社会基盤づくり，なかでも，災害に強い地域や環境に優しい社会，地域活性化を中心に「誰もが主体的に協働して，みんなが幸せに暮らせる社会を創る」を目指して，社会的課題の本質を見極めて解決する研究をしている。特に，安全性・快適性・利便性などの外部(不)経済効果の経済的評価とそれに基づく政策デザイン，並びに，対価性の低い社会的ニーズの経済システムへの内部化，すなわち公共政策やビジネスへの落とし込み方策，地域協働の仕組みを探求している。



こやま まき
小山真紀

1972年岡山県生まれ。1998年山口大学大学院理工学研究科知能情報システム工学専攻博士前期課程を修了。NTTでシステムエンジニアとして勤務した後，1999年より(財)地震予知総合研究振興会東濃地震科学研究所で地震防災に係わる研究に従事しつつ2004年に東京工業大学総合理工学研究科人間環境システム専攻にて博士（工学）を取得。2010年より京都大学の安寧の都市ユニットにおいて，「少子高齢社会を踏まえた，平常時から災害時まで生きやすく，粘り強いまちづくり」について教育・研究に従事。2015年より岐阜大学流域圏科学研究センターおよび清流の国ぎふ防災・減災センターにおいて防災・減災に関わる人材育成・研究に従事している。専門は地域防災学であり，災害時の人間行動と死傷に関する研究，コミュニティや市町村の防災対応など事前・最中・事後を通じた減災に関わる研究を続けている。現在は地震防災だけにとどまらず，世帯及び地域コミュニティにおける防災力（世帯・地域コミュニティの災害に対するレジリエンス）などに着目した取り組みを進めている。直接防災講座などに参加できない人でも，防災について考えたり，話し合ったりできるような環境づくりに向けて，地域防災の取り組み支援のためのオンライン講座「事例に学ぶ災害対策」と「事例に学ぶ災害対策-要支援者対策編」をfisdom (<https://www.fisdom.org/>)で常設開講中である。両講座の動画はYouTubeで公開中であり，講座の受講に関わらず，必要な動画だけを利用できる（YouTube内で「事例に学ぶ災害対策講座」で検索すると出てきます）。



むらおかはるみち

村岡治道

1971年京都府生まれ。1996年関西大学大学院博士課程前期課程修了，1999年大阪大学大学院博士課程修了。1999年より大阪大学大学院(助手)，2000年より民間研究所で勤務。1999年博士(工学)，2002年技術士(上下水道部門 下水道)，2003年技術士(建設部門 建設環境)。都市水害対策をテーマに技術開発ならびに社会実装計画立案に従事。高度な最先端技術に関する研究と実務に携わりつつも，土地利用の不適切さや自助の普及が足りないために被害が減らないことを痛感。2013年愛媛大学防災情報研究センターに准教授として着任して以降は，啓発活動や防災教育支援を通じて，「危険を見極め回避するために必要な目利き(想定外を想定する力)」の育成・普及に取り組む。2014年岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センター特任准教授。2015年春，単著「自然災害防災教本—実践したい自助—」を出版。2016年4月より「清流の国ぎふ 防災・減災センター」コーディネーターに就任。2017年4月より岐阜大学地域減災研究センター特任准教授。